

2025 年 10 月 20 日

報道機関 各位

長崎大学×長崎市の「観光教育」が本格スタート ー「オーダーメイド型」学習プログラムの開発・提供を開始ー

2025 年 10月21日（火）14:00-17:00、および翌 22 日（水）14:00-17:00 に「観光教育」の出前授業を実施します（21 日：長崎市立日吉中学校、22 日：長崎市立飽浦小学校）。

これは、長崎市観光政策課が長崎市教育委員会と協働で進める、宿泊税を財源として地域観光人材の育成を進める全国で初めての取り組みの一環です。人口減少社会が進行するなか、「観光」を通じて地域への誇り（「シビック・プライド」）をもつ人材を育てることは、地域活性化や若い層の人材流出の抑制・環流の促進にもつながると考えられています。長崎市では令和 6 年度より取り組んでおり、「観光教育長崎モデル」として全国的にも注目を集めています。

長崎大学教育学部もこの活動に参画しており、今回、同学部の井手弘人准教授が、小中学生に「観光教育」の出前授業を実施します。当日は、ぜひ取材にお越しいただき現場の様子をお伝えください。



【上・下】長崎市立神浦小学校での観光教育出前授業（2025 年 9 月 24 日、授業者：寺本潔 名城大学特任教授）

今回の2校の授業は、学校の教育課程の要望にあわせて大学が学生と協働して授業をデザインし、実践する「オーダーメイド型」でつくられている点が特徴です。したがって、それぞれの学校の地域や児童・生徒の実態にあわせた準備をしています。

- ・ 21日の授業（日吉中）は全学年で生徒7名。人口減少が進む地域の小規模校であること、中学生という自分の将来を考える時期であることから、「キャリア学習としての観光教育」の授業を実践します。「将来何になりたいか」という思考を「将来何をしたいか」という視点に置き換えて、さまざまなことが関連するすそ野の広い観光の特性を活かして、「仕事を『創る』」（アントレプレナーシップ）、そしてそれによって地元に残ることもできる発想への転換を、日吉地区のCM動画づくりを通して育みます。
- ・ 22日の授業（飽浦小）は、4年生と5年生合同の「総合的な学習の時間」（変則複式学級）です。4年生は「環境」を、5年生は「平和」をテーマに年間を通してそれぞれ学習していますが、今回は「景観」概念を使った共通テーマで、フィールドワークも織り交ぜて学びます。4年生は、飽浦からの「元気な景観」「元気のない景観」を探し、自分たちはなぜそこを「元気な景観」と捉えたのかを考え、その過程を通して、地球環境の「元気」と児童自身の気持ちにある「元気」との関連性について、気づく機会をつくります（長崎大学が取り組む「プラネタリーヘルス」マインド醸成と関連しています）。5年生は、三菱飽浦造船所での原爆体験者の証言を手掛かり（インターネットで閲覧可能）に、爆心地から3.5キロ離れた飽浦で迎えた1945年8月9日11時1分と同日11時3分との比較対比を想像し、爆心地付近とは異なる飽浦での「あの瞬間」を考えます。

両学年の学習をふまえて、一般的にイメージされる「長崎（市）」の対岸に位置する飽浦を、長崎にきた観光客にどのような言葉で印象づければ関心をもって訪れてもらえるか、キャッチフレーズを通して合同で考えていきます。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学人文社会科学域 教育学系

井手 弘人（いで ひろと） 准教授

メール:hirotoi@nagasaki-u.ac.jp

【取材に関するお問い合わせ先】

いずれの時間も取材いただけますが、学校のセキュリティの観点から、必ず事前にご連絡をお願いいたします。

（一社）長崎国際観光コンベンション協会（長崎市令和7年度観光産業人材育成事業運営事務局）

担当：徳永・高橋 / 電話：095-823-7423 メール: tokunaga@nagasaki-visit.com